



会員数 30人

北九州プロバスクラブ月報

つながり

No. 201

令和5年3月号

2023. 3. 21

2月卓話 「城下町の今と昔」

神田澄男会員

「小倉藩土屋敷絵図」なる古地図を見ながらお話は始まりました。古地図の字が不鮮明なため途中であきらめてしまったのは私だけ?と自問自答しながらも、町の名前や役割など、改めて知りました。その昔、小倉は中津街道や長崎街道の出発点であったため「九州のすべての道は小倉に通じる」と言われ、街道に通じる門が八か所あり、中津に通じる門は中津口門、田川の香春に続く門は香春口門と呼ばれ、それぞれ今も名前が残されているのはロマンです。



また、三郎丸村・萩崎村・片野村・片野新町村が合併して三萩野村から今の三萩野になったとか、今より海岸線が近かった町の名に船頭町・古船場など船に因んだ名前が残されている。「旦過」は宗教的な言葉“旦過者=行脚僧の泊まる宿”から来ていること等、話は事欠きません。さらに十八番の「小倉の中心街は寺町」の話の中で、長い間歌のレッスンで通っていた堺町のお寺が行政指導で霧ヶ丘に移転せざるを得なかったことを思い起し、やや胸が痛みました。ダンディーな神田さん、次はお寺以外のお話を…。(植田)

2月例会報告

例会には 25 名出席、恒例の中山会員指導のストレッチ運動で始まり、お誕生日会は山下会員欠席で、中山会員お一人が立たれ、会長から祝辞などを受けた。会食後に植田会長が「コロナ禍が収まりつつある現在、マスクをかける人、かけない人が出てくるとおと思いますが、マスクの有無で偏見を持たないでください」と挨拶、続いて卓話は神田会員が「城下町の今と昔」のタイトルで生まれ育った小倉の今昔を配布した古地図をもとに紹介、神田さんの記憶力と郷土愛という知識欲には感心するのみ。会員の動向では竹原会員が体調不良で監査役を辞退、後任に遠藤会員を推挙してきたため、全員に諮り、承認された。委員会や同好会報告のあと、役員会からトルコ地震への救済募金が提案され承認、1口 2000 円で協力を呼び掛けた。(安高)

2月のお誕生 おめでとうございます

(敬称略)

山下 博 (4日) 欠席

中山正英 (27日)



☆例会委員会

3月7日 9名出席

湖月堂にて17時30分から開催した。主要議題である卓話の件から、活発な意見が出て協議検討し、7月の予定まで決定した。また、例会受付についてわかりやすい例会受付手順の作成されたマニュアル文を協議した。他に例会運営全体の事柄についても話し合った。今回は9名の出席であったが、いろいろな話が出て有意義な会議であった。(大石)

☆広報委員会

3月3日 5名出席

春本番「雛の節句」の日に開催。雛あられならぬ干菓子をいただきながら「つながり4月号」の編集会議で、原稿執筆や写真担当者の確認を行った。投稿欄の”暖気流”に新しく写真の投稿があり、どのように紙面を飾っていけばよいかも検討して行くこととなった。

また、広報委員は退会や病魔との闘いをやむなくされた方もあり、委員確保の問題に加え、1日も早い病魔の退散を願うばかりである。(内藤)

☆交流委員会

2月14日 13名出席

湖月堂にて17時30分より開催。10月に各委員から提案された様々な交流事業を「学び」「旅行・慰安」「他団体との交流」と分類し、それを基に和やかな雰囲気の中、活発な話し合いがなされた。

結果、春の交流委員会行事としては「白野江植物公園と部埼の灯台の見学ツアー」の案が採用された。中心となる担当者を決め、詳細についてはこれから検討する。他にも興味深い提案があり、今後の行事にもご期待いただきたい。(近藤哲生)



“いい人生を送るために”

No.69 大川 力

「マイブック」について話をさせていただきます。4年前のことで恐縮ですが、マイブック(新潮文庫から出版の日記帳で365頁分の容量があり、1冊400円)に毎日寝る前のひと時を、今日の出来事や家族の様子、体調などの健康問題を書いたり、新聞の切り抜きを張るなどして、日記帳方式で記録を取っています。



書き始めて5冊目になりますが、現在も続けています。それにプロバスへの参加は私の楽しみであり、生きる実感でもあります。たかが日記ですが、書く文章は「常に前向きな言葉、後ろ向きな言葉ではなく、プラス思考の言葉」で毎日を終えるようにすることが絶対ということです。いい言葉、プラス言葉を繰り返すことが、必ず「いい未来を創る法則」によって、まさに自分の人生が良くなるという魔法なのです。もちろん人との接し方も変わってきますと…。

大川さんの口調は確信に満ちていました。私も早速「マイブック」を購入して開始します。ありがとうございました。(眞鍋)

ワインを楽しむ会 🍷

少し寒さの和らいだ 2月26日18時から8名参加で開催。会場は「リップ」、先ず現代イタリア「白ワインの聖地」と呼ばれているフリウリ・ヴェネチア・ジュリア州産のシャルドネは、参加者を唸らせるほどの圧巻で、さらに前菜「肉のパテ、マッシュポテト、赤ワインソース」が一層ワインを引き立てた。次はフランスの赤ワイン、終わりはイタリアのワイン誌評価が95点という赤ワイン、アロマチックで色調はガーネット色、2015年物の極上で、参加者全員が大満足で幕を閉じた。講師山下博会員は Facetime での参加であ

歌をうたう会 🎵

2月24日、1月の練習から1ヶ月半、少し間が空いての会です。今月から新曲「涙そうそう」の練習が始まりました。皆さんよく知っている曲ですが、楽譜通りに歌うことが難しく、♪ふーるい アールバム めーくり♪ 付点音符の拍子を正確にとらないと声が揃いません。それぞれのパートの声を聴き合い、歌詞ではなく ah で歌う等して、リズムをとることに終始した練習でした。最後にはハーモニーもつけて歌えたので、初めてにし

🎧 🎧 歴史文学講座

2月の講座は第4火曜日の28日に開催、講師轟良子先生による「企救郡(小倉・門司)の文学碑」のお話を聞いた。北九州市内には175の文学碑があり、火野葦平をはじめ森鷗外、劉寒吉、岩下俊作、杉田久女、橋本多佳子ら、門司、小倉にある文学碑を次々に紹介。例えば岩下俊作の「富島松五郎伝」の小倉の碑が小説の主人公・無法松の碑となっているなど、碑のいわれ、作者の想いや生き様など、パワーポイントを使ってドラマチックに語ってくれ、あつと言う間に時間が過ぎた。次回は3月28日。「筑前(若松、八幡、戸畑)の文学碑」だ。(松本)

クリーンアップ大作戦! に参加しました

第18回北九州の玄関クリーンアップ一斉清掃が、3月8日午前10時からセントシティ前で行われました。プロバスクラブから6名の会員が参加。小倉駅周辺のタバコの吸い殻や落葉などの清掃に爽やかな汗を流しました。(内藤)

📷 写友会 「競い合い」 古賀靖子



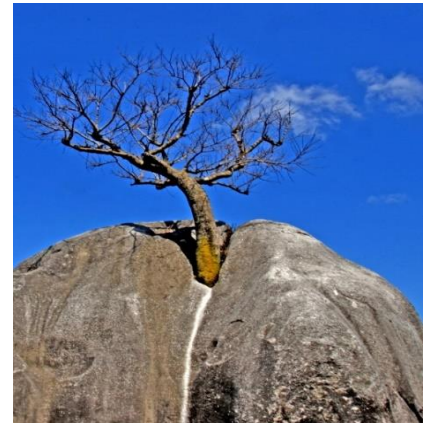
今月より会員の作品を示します



平尾台 石の詩(1)

古賀 靖子

小倉南区にある標高 712mの貫山、北面は「ミニ富士」といわれる端正な山容だが、南面はカルスト台地の平尾台として市民から親しまれている。大草原と無数の岩が織りなす不思議な景観。ユニークな奇岩を紹介します。



ど根性の木



いま、何しようとしてたんだっけ？

No.72 近藤哲生

最近頻繁に出くわす私のこのフレーズ。名前が出てこない、物忘れが激しい。

こんな私ですが、法定・任意後見人契約を5名ほど受任していますし、遺言書を正しく履行する遺言執行者も20人程引き受けています。最近、その方々から「お元気ですか」と逆に健康を氣遣われることもしばしばです。

相手方にすれば、私が仕事を辞めたり、大病ないし先立つこと等はゆゆしきことですよ。そういう訳で昨年法人を立ち上げました。私に何かあっても、社員が引き継いで対応してくれるようにとの思いです。冒頭の物忘れですが、政府の発表では85歳で6割の人に何らかの認知障害があるそうです。ある医者「認知症になる位なら、喜んでがんを選択する」と本に書いていました。今のところ残念ながら不治の病とか。私たちが日常生活での小さな取り組みと工夫で、認知症予防に心がけましょ。

ありがとう BOX メッセージ2月分 (五十音順、敬称略)

★(植田) ★感謝(遠藤) ★もうすぐ春ですね。鳥のささやき(大川) ★ご清聴アリガトウゴザイマシタ(神田) ★暖かい気配でしたが、今日は真冬に逆もどり。まだまだ用心(古賀靖子) ★春は名のみの風の寒さよ。お体に留意下さい。(近藤哲生) ★神田会員の記憶力に感服いたしました(近藤弘子) ★コロナ禍が少し落ちついたようでうれしい(柴村) ★神田会員は小倉の町の歴史の生き字引。いつまでもお元気で。(住吉) ★健康第一(中山) ★友との電話。失敗談を笑い飛ばして元気。(橋本) ★感謝(松永) ★(松本) ★(安高) ★今年は世界が大きく変わると思います(吉田信雄)

収支報告	1 月末残高	104,742 円
	2 月分収入(例会)	7,570 円
	2 月末残高	112,312 円

